

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 3月号 (No.208)

2021年3月26日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

あの日を忘れない (2011・3・11)

牧 裕子 (埼玉・(福)さやまが丘保育の会)

2011年3月11日、あの日はあかねの虹保育園の園舎引き渡しの日でした。法人として3園目の園舎が完成し、設計士、工務店の業者、ステンドグラスのデザイナー等により園舎の説明と引き渡しの説明が終わりそれぞれ挨拶をしているところに、大きくグラッと建物揺れました。私は玄関の近くで業者を見送る時でしたがその場に立っていることはできませんでした。玄関そばの絵本コーナーの柱にしがみついていた。業者のみなさんも同じように玄関に座り込んで下駄箱につかまっていた。たびたびの揺れで、私は園舎が崩れるのではないかと思いました。保育園の前の電線が縄跳びの紐のように揺れるのを見ながらただ事ではない危険を感じていました。保育園の向かい側が所沢消防署西分署だったので、消防署のスピーカーの雑音の中から「東北地方で巨大地震発生」と聞こえ、東北地方の地震が所沢までこんなに大きく影響するなど不安でいっぱいでした。やっと揺れが収まって保育園に電話をしてもつながりません。設計士と一緒にロッカーなど備品の入っていない園舎を隅から隅まで点検しましたが、壁にも天井にも床にもひび割れひとつありませんでした。取りあえず保育園に戻り、あかね保育園とあかねの風保育園の状況を把握し今後の対策を考えました。あかねの風保育園は翌日が卒園式でした。子どものお迎えが来るまで不安にさせないように配慮し最後のお迎えは8時でした。緊急に保護者と相談し、揺れも収まったので明日の卒園式は開始時間を少し遅らせて行うことになりました。保育園を出たのは9時過ぎ、職員を送って家についたのは11時過ぎでした。家に帰ってテレビを見て、地震と津波の状況を知り、東北の友人の保育園のことを考えると夜も眠れませんでした。

した。

翌日の卒園式は無事に終わりました。お父さんの中には夜中歩いて朝に保育園にたどり着いた方もいました。その後の原発崩壊等未曾有の被害にテレビを見るのが怖くなりました。

翌年の夏、東京経営懇の仲間数人とともに東北へ向かい自分の目で被災地を見てきました。門扉だけ残して園舎のない保育園の跡地、園舎は辛うじて残ったがすべて流されホール天井まで津波の後が残っていました。瓦礫の園庭をほじくると園務日誌の用紙や子どもの靴が泥に埋もれていました。胸がいっぱいになり、涙が止まりませんでした。

私は、あかねの虹保育園の誕生日を3月11日と決め毎年保育園の誕生会には3・11の大震災の写真を見せながら子どもたちに伝え、数年間、福島県のさくら保育園には園庭で取れたドングリなどを送ったりしました。

「核兵器禁止条約」が50か国で批准され2021年1月22日に発効しました。日本は2回も原子爆弾を落とされ、津波による原子力発電所の崩壊等、75年経っても原爆の被害に苦しみ、10年経っても原発の被害に苦しむ日本国は世界の中でも被害国として際立っているのに条約に批准をしておらず、こうした政府の姿勢を理解することはできません。私たちは毎日の暮らしの中で忘れることがたくさんありますが、1945年の広島・長崎、2011年の東北大震災の原子力発電所崩壊を忘れることはできません。悲惨な状況を伝え続けると共に、世界の平和を願い、子どもたちが安心して自分の未来をつくることのできるような活動を、より強力に進める必要を感じるこの頃です。

保育をめぐる情勢

●公定価格減額について

経営懇副会長・原田秀一

公定価格の減額、その内容

2020年度の国家公務員給与が以下のとおり改訂されました(同封資料参照)。

(1)月例給与 改訂なし

(2) 期末手当 0.05カ月分引き下げ

(3)勤勉手当 改訂なし

公定価格に積算されている人件費の額は国家公務員の給与に準じて算定されるため、国家公務員の給与の改定にあわせ、公定価格も改訂されることになりました。2020年度は国家公務員給与の期末手当が0.05カ月分引き下げられたため、公定価格の単価表も相当分が改訂(減額)されます。**予算上の改訂率は▲0.3%(年額1人▲1万円)です。**

改訂は2021年2月分の公定価格から適用され、**2月と3月分で年間の減額相当額の全額が減額**されます。また、**2021年度の公定価格は、今回減額された額が反映される予定**です。**保育士給与改善が重要なのに、減額…!**

内閣府は当初、減額相当額を別の項目で手当であることを検討するとしていましたが、結局は国家公務員給与の改定(減額)をそのまま準用する方針をとりました。内閣府は「国家公務員給与の引き上げの時は公定価格もプラス改訂することとしており、考え方として筋を通した。」という認識を示しています。

保育士給与の改善が保育政策における最重要課題として認識されるなかの人件費のマイナス改定は論外です。保育士確保困難問題と慢性的な待機児童問題の解決を図るなら、「国家公務員の給与に準じて算定」という考え方の機械的な適用の無意味さはだれの目にも明らか

です。必要な予算措置を講じ、保育士給与の水準を維持することこそが保育行政のとるべき施策です。

2021年度も公定価格の減額が予定されており、減額された人件費の増額を求める取り組みが緊急に求められています。

●保育士配置の規制緩和、対象を限定する方向か!?

国は、2月26日に開催した子ども・子育て支援新制度の自治体向け説明会で、「新子育て安心プラン」で示した短時間勤務保育士の規制緩和策についての、通知(案)を示しました。

通知(案)では、保育士定数は常勤保育士であることが原則としたうえで、対象となるのは、待機児童が存在し、なおかつ、常勤保育士を確保できないため待機児童が生じていると判断している市町村、と限定しています。また、対象となる保育所等は、常勤保育士の確保が難しく空きがあっても子どもを受け入れられない等、市町村がやむを得ないと認めた場合としています。さらに、市町村に対し、現場の保育関係者と認識の共有を図ることや、保育所等の処遇内容や求人募集等の状況を把握することを求めています。

この間、この問題についての報道や、私たちが緊急署名等と呼びかけていること等もあって、国としても一定限定する姿勢を示さざるを得ない状況をつくってきたといえます。しかし、それも不十分で問題ある内容に変わりはありません。国に、保育士不足の根本的な解決に向けた施策の実行を求め続けていくことが重要です。

◆厚労省・内閣府懇談

3月17日に、「よりよい保育を！実行委員会」で省庁懇談を行ない、短時間勤務保育士配置の規制を緩和しないよう訴えました。石川会長・森山事務局長・役員が参加し、現場の実態や今回の規制緩和の問題点を訴えました。

各地の活動

●各地でリモート学習会

コロナ禍で、集まっての会議や研修が思うようにできなくなって、1年がたとうとしています。そうした状況の中で、インターネットの活用に挑戦するなど、今できることは何かを考え試行錯誤する地域が増えてきました。

2月には、中四国経営懇、中部地区の経営懇がリモートでの学習会・交流会を開催しました。その様子や感想をご紹介します。

◆中部地域経営懇交流会

2月16日に、「コロナから子どもを守るために大切なこと」をテーマにリモート交流会を開催しました。当日は、愛知・岐阜・三重・静岡・石川から、53名が参加しました。

当日までのとりくみ

今年は、経営懇のセミナーで集うことが出来ないため、中部地域の皆さんで交流しようと呼びかけました。12月中旬に、中部地域の会員園に案内を郵送し、その後、参加を呼びかける電話を手分けしてかけました。また、各地域から、コロナ禍での保育の状況を報告してもらうようお願いしました。

当日の様子～報告をもとにグループで交流

まず、岐阜・はだしっこ保育園からは、コロナ禍ゆえに不安が噴出した職員の想いとどんな時でも受け入れてあげたい園としての立場とで対立した、という報告がありました。多少の違いはあるものの、園長ならではの苦悩話に共鳴の輪が響き出していました。

次に三重・こっこ保育園から、父母と手を繋いで作り上げてきた保育園が初めてこのような壁にぶつかるものの、行事の継承について、「このような時期で何が出来るのか」を父母と悩みなが

ら取り組んできたと報告されました。田植えから餅米の収穫のあと磯部揚げパーティ、プールの取り組み、様々行事が中止になったものの、近くの牧場から牛見学のお誘いがあり動物を見に行く等、地域の方々や保護者の声で交流を大切に行事を無くすのではなくつないできました。

石川県金沢市のあゆみ保育園では、コロナ対策として、玄関での受け入れ対応にしたところ、保護者と話ができない状況になってしまいました。この事を解消するために、お手紙を作りお家に届けに行く取り組みや広いホールでの懇談会、1歳児の遊ぶ姿を撮影しDVDを作成してビデオの回覧をするなどの工夫をしました。

静岡・つくしんぼ保育園でも行事の取り組み方を話し合い、換気した体育館で「つくしんピック」を取り組んだ経験が語られました。自治体交渉の取り組みでは、広島県のように保育所職員が無料でPCR検査が受けられるように国に要請していると回答をもらっています。

報告の後、グループ討議に入り様々な経験を出しあい交流しました。その一部をお伝えします。

○グループ①：職員や保護者・子どもがコロナに罹患したり、濃厚接触者になったりした園長が多かった。「地獄を味わった」、「今でも緊張感が蘇る」「園長のメンタルが心配。こういう場でケアし合えることは大事」「市が消毒会社に連絡をしてくれた」「フローチャートの、今はどの段階で何をすべきか、の援助など自治体が一緒に考えてくれるなど心強かった」などの経験が語られた。改めて園長の責任の重大さ、大変さを痛感した。

○グループ②：1，コロナ感染防止対策は重要な取り組み。2，父母と共に・父母との「同僚性」は欠かせない。なので、2，3歳児卒園の園でこのような事態がこのまま継続したら父母との繋がりが全くないまま卒園してしまう状況になる。こんな事態は悲しくて仕方がない。父母に助けら

れることも沢山ある。早く収束してほしい。3、保育園が社会的に大きな役割を果たしてきていることに確信を持った。社会的資源として大きい役割を果たしている。このことを伝えなくてはならない。

他のグループでも、コロナ禍での日常の保育の方法の話や、行事の取り組み方等を交流し、盛り上がっていました。

今回このような形で繋がれたことが素晴らしい、「これを機に東海経営懇ができるといいですね」という意見や、こうした悩みやとりくみをもとに発信したり、国や自治体に要求をしたり、していかなければいけないと確認しあいました。コロナの試練の中、あらためて、強く熱く繋がりが持てた園長たちの交流会でした。

(報告：愛知・小西文代)

参加者の感想より

*愛知県外の近隣県での状況を聞き、感染レベルが異なっても、大変さも悩みも同様だった。はだしっこ保育園の報告が印象的で、「同じ思いで進めていたつもりでも、コロナ禍で浮き彫りになったそれぞれの思い」は、私も感じるどころがあった。後半のグループ交流では悩みや大変さがそれぞれ出され共有共感できたことが良かった。コロナ禍だからこそそのつながりの大切さを、再認識した。今後も続けていけるといい。

*これまでのようにいかないコロナ禍で、新たな工夫が生まれたことも、新たな気づきもたくさんありました。こっこ保育園の先生がおっしゃっていたように、保護者とのつながり、そして職員同士のつながりも、今まで大切にしてきたものを今後どのように引き継いでいけるか、は大きな課題だと思っていました。次年度の保育園の運営で一番の柱にしておくことが必要だと思っていたところでしたので、形は違っても保護者と話す機会、意見を聞く機会を持つことが必要で、園からのアプローチもしていきたいと思いました。

*保育園の取り組みを通しての保護者とのつながり…を、今後どのように工夫していくか?できない…と後ろ向きにならず、出来る限りの対策をした上で、どんな形なら可能か? 保護者にも、理解と協力を求めながら実現していかないといけないな…と感じました。

◆中四国経営懇学習会に参加して 3・11 震災と コロナ禍で思うこと

島根・わかたけ保育園・竹内多寿子

昨年2月下旬、私たちは年長保育の1年間の総まとめと言える交流園5園での行事を計画していました。ところが、私の保育園では直前になってインフルエンザが流行し年長クラスの半数がお休みする事態となり、全く参加できませんでした。もう1園ではおたふく風邪が流行するし、ダイヤモンドプリンセス号でのコロナ感染がニュースで騒がれ始め、市役所からは多くの人が集まる催し物はしないよという指示が下り、とうとう3日目の保護者への公開保育は中止になってしまいました。その時ひどく残念だったことと、あらためて感染症の怖さを思い知ったように思います。

4月・5月の緊急事態宣言下では、クラスの半数が協力してお休みして下さる中、感染予防策はどうすべきか、どのように保育をしていくか、また子どもを持つ職員をどう休ませてあげるか。子どもたちの登降園時、保護者に園内にどこまで入ってもらえるか。計画した行事はどのようにすべきか。次から次へと判断を迫られることばかりでした。しかし、現場で感染のリスクを一番に感じながら保育している職員の思いを汲みながら進まない事や、保護者の皆さんに理解していただき、一緒になってコロナに向っていかねばならないことをつくづく感じ、計11回のお便

りを出しました。

今まで、大切にしてきた保育を、コロナだから怖いからすべてやめましようとは思えず、「どうやったらできるか」を一生懸命考えてきたように思います。

昨年6月頃、保育中にマスクを着用していることの弊害を感じて職員で話し合いを重ね、日中はマスクを外し、朝夕の時間帯だけマスクをするようにしました。これも市中感染が起こっていない松江市だからできたことかもしれません。このことについては、新聞にも取り上げられ、他園からも反響がありました。しかし、冬の間はマスクをつけて保育を行いました。

先日の中四国経営懇談会のリモート研修で、改めて皆さんが悩みながら今日まで、保育を頑張ってきた事が分かりとても力になりました。島根では、いくつかのクラスターは発生しましたが、市中感染は起こっていない中でもこれだけ不安を感じながら過ごしてきたわけですから、他県の皆さんのことを思うと一日も早い終息を願わずにはられません。

東日本の震災と原発事故から10年の節目を迎えました。新型コロナもそうですが人間はもっと自然に対し謙虚にならなければならないことを痛切に思います。

また、国は一人でも待機児童がいる自治体は短時間保育士の継ぎ合わせの保育でも構わないと言いついています。とんでもないと思います。日々の保育に追われがちですが、しっかり目を見張って阻止していきましょう。



●知事あて要望書、県内 保育施設に賛同を呼びか ける／山形

山形県保育関係団体連絡会は、県知事への要望書への賛同呼びかけを、県内330園に郵送しました。そのうち37園から賛同が寄せられました。寄せられた要望をまとめ、3月中旬に県との懇談を実施する予定です。

県内への呼びかけ文は以下の通りです。

令和3年1月

県内の保育園・認定こども園のみなさんへ

お 願 い

山形県保育関係団体連絡会
会長 阿部啓一

新年を迎えるなか、子どもたちと冬の季節を存分に楽しんでおられることと存じます。しかし、「新型コロナウイルス」の感染拡大は日々更新し、子どもたちのくらしの場である私たちの現場を継続するためにはこれまで以上に負担の大きい事態が予想されます。

こうした現場の声について、国・市町村と連携しながらも、県レベルでその取り組みを強化いただくお願いを別紙のとおり準備しました。現場からの声はさらに多岐にわたる時代ですが、子どもたち・ご家族そして職員の「命」を守ることを願っての項目です。お忙しいなかででしょうが、2月15日まで、ファクシミリまたはメールにて当会事務局までご返送いただければ幸いです。なお、「みなさんの声」の欄には、みなさんの率直なご意見・提案などをご記入ください。

(以下略)

コロナ禍での 保育

神奈川・(福) あおぞら あおぞら保育園

あおぞら保育園は、共同保育からスタートした66年目を迎える認可保育園です。横浜市内で4園を運営する社会福祉法人で、うち2園は公立保育園からの移管園です。

2020年4月の緊急事態宣言のときには、登園自粛により、あおぞら保育園では最大4割まで登園園児数が減りました。接触を減らし、自宅待機やリモートワークで対応をしました。

保育の工夫

様々な工夫で感染防止対策に取り組みました。一番感染リスクが高いとされた給食は、当初、大人は時間と場所をわけ、園児は対面をやめ横一列にしました。毎回の職員会議で、感染対策と子どもたちの育ちの保障について議論を重ね、透明のパーテーションを使用し、対面での給食を再開。子どもたちは、友だちと手を振りながら楽しそうに給食を食べ、顔を見合わせながら食べる給食や保育の重要性を再認識しました。

また登園が減る中で、登園している園児と休んでいる園児と「お手紙交流」を行いました。子どもたちにそれぞれの思いを絵や文字にもらい交流。休んでいる園児からは「保育園にいきたいよ」と切実な思いが届くなど、日々の集団保育の大切さを実感しました。

行事の工夫

行事については、延期・中止・縮小開催が迫りましたが、各行事のもつ役割を丁寧に議論し、リスクを回避しながらも大切にしたいことを、職員のアイデアを出してもらいました。毎年海に行っている春の遠足が中止となり、「海に行けなかったので保育園を海にしちゃおう！」と各クラスで海の生物を制作し2階ホールを装飾しました。ホッとする空間ができて送迎時の保護者からも大好評でした。

さらに重視した事は、保護者との話し合いです。事前に行事に関するアンケートをとり、父母の会との話し合いを経て、全保護者を対象にしたリモートによる懇談会を行いました。保護者参観の縮小を提案しましたが、毎年設営などで保護者に参加をいただいているので、夏の盆踊り大会では、仕事帰りのお父さんたちの協力で、園庭にステージやぐらを建てました。組み立て作業の様子も含めて各クラス園児の踊りの発表を動画に編集して配信しました。保護者から「コロナ禍をマイナスにとらえるのではなく、今だから出来ることを園と父母と一緒に考え実行できたことがよかった。このような状況であるが、当たり前だったことがかけがえのないものであることを再認識できたと思う」と感想が寄せられ、コロナ禍でも前進への感触を得ました。

とことん話し合って

運動会では、接触を減らすために、乳児、幼児の2部制としました。保護者のみなさんに他クラスの園児の様子をみてもらえるように練習風景の動画を配信することにしました。しかし保護者と職員から「これまで子どもたちの生の姿をみてほしいと言ってきたのに、動画はどうなのか」と

いう声がありました。これまでもクラス通信で子どもたちの練習を伝えてきました。同時に動画で配信すれば、よりリアルに伝わるのではないかと、とことん話し合いました。風物詩になっているさくら組（5歳児クラス）の跳び箱練習など、動画配信することにより、他クラスの多くの保護者に見てもらえることができ、「うちの子もできるようになるのかな」とこれまで以上の反響があり、本番当日に向けて子どもたちのやる気と保護者の期待が膨らみました。

開催不可能と思われた「ふれあいまつり」はオンラインで開催することになりました。当初は職員も保護者もイメージがわからず、準備が思うように進みませんでした。やはり職員間でとことん話し合い、企画をにつめ、実行委員会で動画投稿をよびかけると保護者から家族でやっている「ポルダリング」の動画の提供があり、その後も保護者や職員有志、保育園の各サークルから動画の提供がありました。スタンプラリーでは新たな地域活動の成果を得、卒園児も含めたオンライントークセッションでは卒園児と卒園保護者と繋がる教訓と課題を明らかにすることができました。集まって開催する事に意義のあったふれあいまつりが、集まらない形でも有意義な取り組みができるという確信を広げました。

ピンチの時だからこそ

あおぞらの保育理念と向き合う

懇談会や面談についてもリモート開催し、コロナ禍ではありますが、あおぞらの保育が大事にしている「伝える」「参加する」「繋がる」という3つの大切を、これまでとは違う形や表現で実現。新たな価値を生み出したともいえます。

保護者アンケートでは、「やっぱり集まって話したい」「来年こそは行事に参観したい」という

声が寄せられています。これまでの日常がどれだけ大切なものだったかがわかります。同時にオンラインだからこそ出来た事はとても新鮮でした。参観を中止したマラソン大会では、当日保護者が現地で応援できないので、さくら組（5歳児クラス）の保護者から応援動画を寄せてもらい、走る前にクラスみんなで鑑賞しました。そこには海外出張しているお父さんや海上の船の上からもメッセージが送られてきました。卒園前の最後の保護者参加行事でしたが、オンラインだからこそ発想できた企画でした。

一年を振り返り分かったことは、コロナ禍だから起きた問題ではなく、もともと存在していた問題が、コロナ禍で浮上し、課題をつきつけられたということでした。いつかは実現したいと考えていたことを一気に実現させていった一年だったともいえます。困難な課題を前に、立ち止まるのではなく動き続ける中にこれまでの課題の答えがあるのだと確信しました。

同時に日常の保育が失われる中で、「地域の母親たちの要求から生まれた共同保育の精神を受け継ぎ『保育は幼児教育である』として子ども一人ひとりの全面発達を保障する」というあおぞらの保育理念と向き合いながら進めてきた一年でした。

※原稿募集に応じて、あおぞら保育園から投稿がありました。ありがとうございました！会員園のみなさん、ぜひ、原稿をお寄せください。

原稿募集中！

- ・職員会議の工夫
- ・コロナ禍での保育

コロナのなかでの

お知らせ

●第53回合研(広島) 分科会自主提案募集!

第53回合研集会は、2021年7月31日～8月1日、広島で開催されます。コロナ禍での開催のため、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式での開催となります。

現在、合研実行委員会で、企画内容・申し込み方法等を検討しています。

◆提案レポート大募集! 記録を残そう!

分科会もオンラインで開催できないか、検討中です。ただし、例年のようにすべての分科会を開催できるか、現時点ではわかりません。分科会開催の有無にかかわらず、各園の実践を集会要綱に掲載しますので、ぜひ提案レポートをお寄せください。

※詳細は同封資料をご覧ください。

●石川康宏さん講演 情勢学習動画公開中!

情勢学習として活用できる動画が公開されています(視聴無料)。

テーマ 「いのちとくらし最優先の社会へ—いま、私たちにできること」

おはなし▶石川康宏さん(神戸女学院大学)

時間▶60分

<https://youtu.be/Wws6i4tRS70>

お話の流れ

- 1) コロナショックがあぶり出した課題
- 2) こんな政府では「新型コロナ」と闘えない
- 3) ポスト・コロナを切り拓く市民自身の取り組み
- 4) 「命とくらしを守る社会」の到達点
- 5) 特に子どもの保育にかかわって
- 6) まともな政府をつくり日本を救おう



わたしのストレス解消法

子どもたちの笑顔!

子どもたちは、コロナ禍でも変わらず元気でパワフルです。子どもたちの笑顔や楽しい話やエピソードを聞くことがストレス解消になっています。

(静岡・50代)

【経営懇・活動日誌】3月

- 3月8日(月) 三役会。2020年度総括と次年度の方針等、論議をスタート。
- 3月17日(水) 省庁懇談。「よりよい保育を! 実行委員会」主催で、厚労省・内閣府と懇談。Zoomでつなぎ、神奈川・広島・島根からも参加(森山・石川・小林)。緊急署名28,023名分を厚労省に手渡す。
- 3月28日(日) 合研常任・全保連常幹合同会議。
- 3月29日(月) 役員会。

同封資料

①情勢関連資料

②第53回合研集会分科会 提案レポート募集します

③2021年度保育プラザ研修ご案内

保育プラザ研修2021
すべてWEBで開講!
職員研修にご活用下さい